

令和4年2月3日
高取小学校 中井滋

- 1 本校の使命
体験を重視した様々な行事を通して、知力・体力、そして、豊かな心を育てていくことを目指す。
- 2 学校経営の軸
目指す子ども像「夢をもち、将来を豊かにたくましく拓く子ども」のもと、子どもたちが自分を取り巻く他者と豊かにかかわり、よりよく生きようとする心が育つための教育活動を展開する。教職員は、共通理解のもと、使命感と責任感をもった教育を行う。
夢をもち、将来を豊かにたくましく拓く子どもになるために
 - (1) 学ぶ力、学力を向上させる。
 - (2) 豊かでたくましい心を培う。
 - (3) 体力、健康、安全について考える力、実践意欲を高める。
 - (4) 家庭・地域（各種団体）と連携する。
 - (5) 多忙化解消への取り組みを行う。
 ※ 最も重要と考えていること → 「課題を解決していく力」の育成
- 3 本年度の取組状況
 - ① 授業力・② 学級経営力を向上させる。
 <成果>
 - (1) 校内外で互いに参観し合う公開授業を25回実施した。
 - ・ 研究協議会の充実（4役・研究主任・学年主任らによる指導助言）を図った。
 - ・ 授業だよりの作成（校長）をした。
⇒ 分析的に授業づくりをする力を高めることができた。
 - (2) 授業実践の振り返り⇒教育論文にまとめる。
 - ・ 教育に対し課題をもつことができた。
 - ・ 他者の評価を通して自分の教育をよりよくしようと意識改革ができた。
⇒ 若手・中堅教員の授業力向上及び論文読み合わせ会での支援が効果的であった。OJTの推進ができた。
 - (3) 校内ICT活用研修の充実
 - ・ タブレット、電子黒板を活用した授業づくりを推進した。
⇒ 1人1台端末に慣れ親しむ段階から、オンライン学習の構築及び学校外での学びの継続を図った。
 <課題> （主体的・対話的で深い学びの創造）
 ○ 学級経営・授業の中で児童の自治・主体性を育むための支援・助言をどう進めるか。
 ⇒ 教職員から出た課題意識（コーチング力、ファシリテーション力の育成）
 - ③ 集団の中で、課題を発見し解決する力をつける。
 <成果>
 - (1) 児童の自治的な取組の増加
 - ・ 児童会役員会による協議を充実させた。
⇒ ① あいさつ運動を継続発展させた。
 - ② 医療従事者への募金活動を行った。
 - ③ 給食中の放送活動を充実させた。
 - (2) 総合的な学習の時間の充実
 - ・ 3年生 福祉学習
⇒ 社会福祉協議会と連携しながら充実した学びを展開し、福祉実践教室を開いた。
 - ④ まちづくりへの協働・貢献
 <成果>
 - (1) 地域との協働
 - ・ まちづくり協議会主催の防災訓練への参加
⇒ タブレット端末を用いた情報伝達訓練に貢献した。
 - ・ 鷹取の会との連携（花火、デジタルショー、熱気球体験）
⇒ 子どもたちの健全な心身の育成に成果をあげた。
 - (2) 教師の呼び掛けから児童主体の取組へ
 - ・ 5年生 防犯学習
⇒ 青パト、見守り活動をはじめとした地道な取組による犯罪減少の成果を実感できた。
 - ・ 5年生 稲刈り体験
⇒ 米問題、環境問題、食糧問題、SDGsと関連付けながら追究ができた。
 - ・ 6年生 防災
⇒ 減災といった視点から、大地震に対する備えについて考察することができた。

<課題>

○協力してくださった地域・PTA役員・教職員の課題意識の共有をどう進めるか。

⇒引き続き、アフターコロナを見据えた学校、家庭、地域の連携の在り方を模索しながら、相互の情報発信、意見交流、協議を深めていく。

⑤多忙化解消への取り組み

<成果>

(1)出退勤管理システムによる在校時間の管理

- ・各自が毎日の出勤時刻及び退勤時刻を簡単に把握できるようになった。
- ・管理職による職員の勤務状況の把握が容易になった。

⇒常に業務の効率化を話題にしながら、職員の在校時間の縮減を図ることができた。

(2)学校・家庭・地域をつなぐ連絡システム「すぐる」の導入

- ・外国籍保護者への連絡も自動翻訳機能により、通訳を介さず、迅速かつ正確にできるようになった。

- ・PDFファイルの活用により、紙資源の削減を図った。

⇒業務の効率を大きく向上させることができた。

<課題>

○関係者とのさらなる連携を模索し、さらなる業務の改善を目指す。

⇒給食時の対応、授業の準備、学習評価や成績処理、学校行事の準備・運営、支援が必要な児童・家庭への対応等、管理職が中心となって、PDACサイクルを構築していく。